

あおもり 旅 ものがたり

たび



鉄道



観光



みやげ



特集

青森の名所と交通の歴史

とじこみ付録 観光絵はがき&おみやげペーパークラフト

青森県立郷土館では、令和3年度から県内各地の文化観光施設を会場として、本県の自然や歴史・文化をご紹介します「巡回展」を開催しています。今年度のテーマは「旅」。

四季折々の美しい景観と文化遺産に恵まれた青森は人気の観光地であり、また本州と北海道をつなぐ交通・交易の要衝としての長い歴史をもっています。旅の目的地であり、人と物の交流の場である青森の魅力を、総合博物館ならではの豊富な資料で多角的にご紹介します。

さあ、ふるさとの物語を見つける旅に一緒に出かけましょう！

Contents

- 01- I 旅と交通
 - 1 近世の旅
 - 03- 2 鉄道の整備
- 07- II 旅と観光
 - 1 風景と観光名所
 - 11- 2 旅のおとも・旅のみやげ
- 2 大特別ふろく
 - 1 復刻 十和田湖観光絵はがき
 - 2 戦前の駅弁・おみやげ 特製ペーパークラフト

〈凡例〉

本書は下記会場と会期により青森県立郷土館が主催する巡回展の展示カタログである。本書の構成や掲載資料は、会場により必ずしも実際の展示と一致するものではない。本書の執筆は当館学芸員・佐藤良宣・滝本敦・増田公寧、編集は増田公寧が行った。

〈会場および会期〉

- | | | |
|--------|-------------|----------------------------|
| 1 むつ会場 | むつ来さまい館 | 令和4年8月11日(木)～9月11日(日) |
| 2 三沢会場 | 青森県立三沢航空科学館 | 令和4年10月1日(土)～10月30日(日) |
| 3 青森会場 | 青森県立美術館 | 令和4年12月23日(水)～令和5年1月29日(日) |

協力：東北福祉大学・鉄道交流ステーション、むら福本店（順不同）

ミシン目を一度折り返してからゆっくりと切り離してください。



作り方は裏面を見てね

青森駅の駅弁
(明治時代)

2大特別ふろく

- ・ペーパークラフト
- ・観光絵はがき

わり箸



青森駅の駅弁
明治43(1910)年ごろ
青森駅構内にあった青森運輸船
の待合室で売られていた駅弁。
東京大学総合図書館蔵

菊羊羹
戦前
青森県地方の名産である菊の花を
用いた羊羹。
青森県立郷土館蔵

マルメロ羊羹
戦前
青森県の名産であるマルメロを
用いた羊羹。
青森県立郷土館蔵

展示札



パンフレット



菊羊羹



マルメロ羊羹



63

郵便はがき



乙女の像

高村光太郎作。国立公園指定15周年を記念して制作が計画されたもので、昭和28(1953)年10月に除幕式が行われた。昭和30年頃発行。

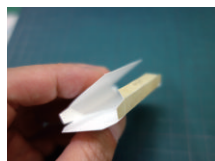
今日見た展示をおうちで再現してみませんか？



①切り取ります



②折り目を付けます



③折ってのりづけ



④完成



展示札と一緒に並べたら、小さな巡回展の完成です！
※駅弁の紐はこの冊子に付属していません

(パンフレットの内側)
※裏面から切り抜いて
ください



ミシン目を一度折り返してからゆっくりと切り離してください。



National Park Lake Tama

・国立公園十和田湖・モニュマン

I 旅と交通

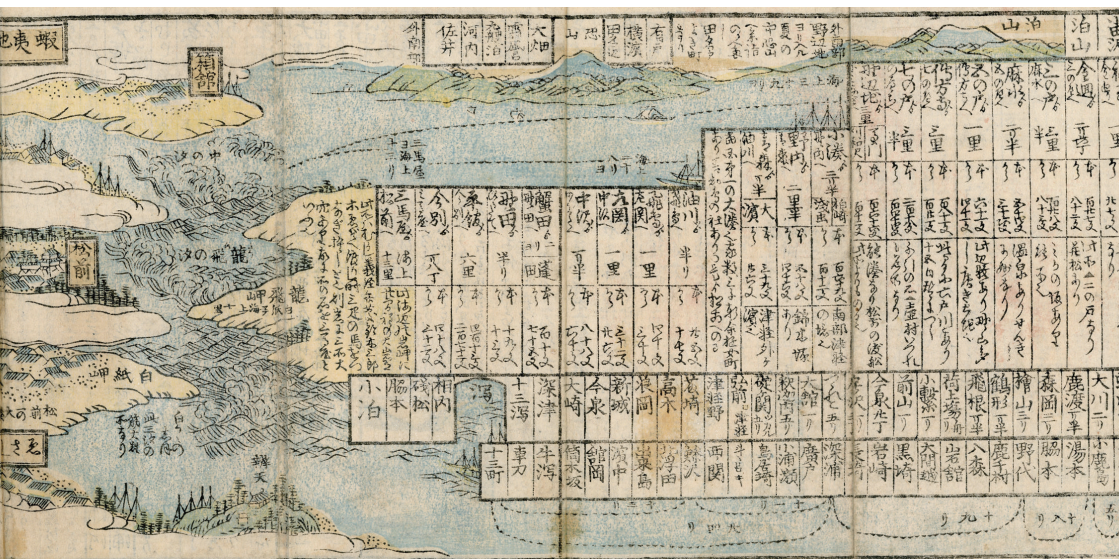
江戸時代、交通路の整備を背景として、各地をめぐる庶民の旅が広まった。

明治期になり、鉄道が開業すると、人々の移動速度は飛躍的に高まり、より遠くへ移動できるようになった。大正中期までには日本を貫く幹線鉄道の整備がほぼ完了し、その後も地方に向けた支線の建設が進んだ。

一方、同じ頃から自動車も発達し、観光地への交通機関も次第に充実していった。



1 近世の旅



江戸時代、街道と宿駅が全国的に整備され、庶民の旅もさかになった。寺社参詣や湯治を目的にしたものとともに、名所・旧跡をめぐる物見遊山の旅も広まっていた。

当時の庶民の旅は徒歩が主な交通手段であったため、天候の変化や歩行に適した服装・持ち物を整える必要があった。また、携帯用の案内書である道中記や、関所を通過するための書類を準備し、目的地に旅立っていった。

諸国順覧懐宝道中図鑑（青森県部分）

天保11(1840)年刊行。日本全国の道程等を絵入りで示した道中記（旅行案内書）。青森県部分では、津軽海峡の激しい潮流も描かれている。

旅の服装・持ち物

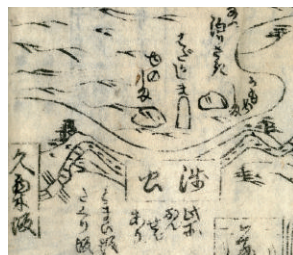
1 道中合羽（丸合羽・引き回し）・三度笠

雨・風・塵などから身を守る必需品。



2 弁当箱

通気性に優れた行李。



五海道中細見記（浅虫部分）

安政5(1858)年刊行。道中記の1つ。浅虫付近に「温泉あり」の表記があり、「鵜島」「裸島」「湯の島」も描かれている。



3 旅枕

携帯用の折り畳み枕。たたむと板状になり、持ち運びに便利。



4 矢立

携帯用筆記用具。筆と墨入れがセットになっている。

2 鉄道の整備

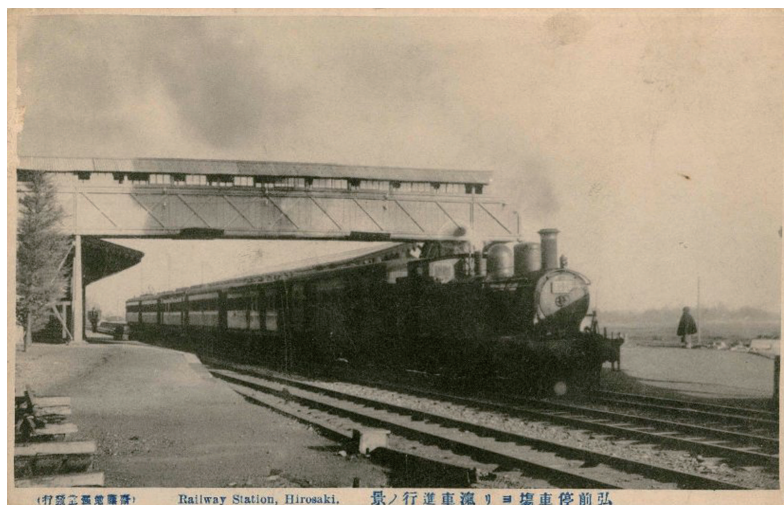


全国鉄道線路明細図

明治 35 (1902) 年の全国鉄道地図。

明治政府発足後間もない明治 2 (1869) 年暮れ、東京－大阪・京都間の鉄道とともに、東北地方への鉄道建設の方針が定められた。しかし、財源難のため、紆余曲折の末、明治 14 (1881) 年に右大臣岩倉具視の呼びかけにより、資金を華族のほか、士族・民間から幅広く集めて建設することになり、日本鉄道株式会社が発足した。同社の線路は上野から徐々に北に向けて延長され、明治 24 (1891) 年 9 月 1 日、最後の区間である盛岡－青森間が開通し、上野－青森間の線路が全通した。

この鉄道は徒歩で 20 日間かかっていた東京－青森間の所要時間を 26 時間余りまで短縮し、沿線の産物の輸送や人々の交流を拡大し、経済・社会を一変させた。



絵はがき 弘前停車場ヨリ汽車進行ノ景

『日本鉄道陸奥地方画譜』

明治24(1891)年頃、盛岡－青森間の鉄道開業を記念して制作された沿線の50景を描いた画集。盛岡出身の川口月村筆。



青森県三戸郡 尻内停車場建築之図

「尻内停車場」とは現在の八戸駅。



青森県東津軽郡 青森県下堤川鉄橋ヨリ岩城山ヲ望ム

「岩城山」は岩木山のこと。昭和43(1968)年線路の経路変更でこの鉄橋は廃止された。



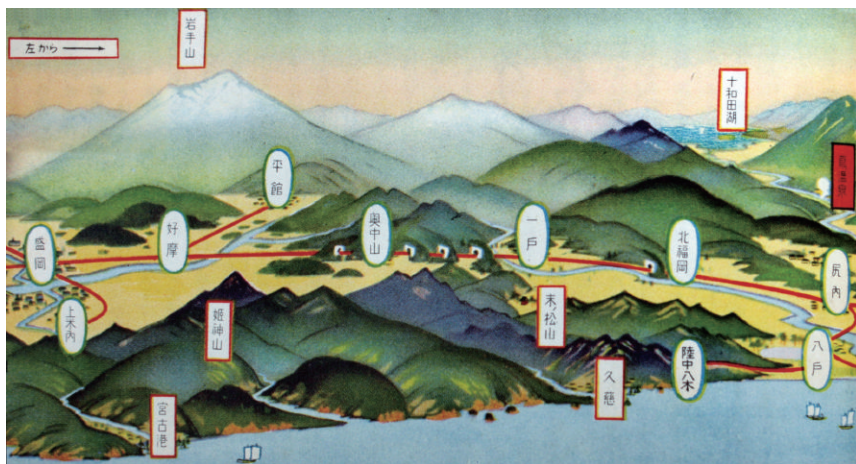
青森県三戸郡 相中村ノ内線路

「相中」とは南部町相内（あいない）のこと。



青森県東津軽郡 善知島前国道ヨリ久栗坂隧道遠望

青森市浅虫の善知島崎（うとうまい）から久栗坂方面の線路を見た図。



『鉄道旅行案内』より 盛岡－青森間の部分

明治43(1910)年、軽便鉄道法が施行されると、各地で小規模な鉄道が数多く作られるようになる。大正期に入ってしばらくすると、バスが公共交通機関としての地位を固める。関東大震災後の不況が始まると、国鉄を運営していた鉄道省も内外の観光客誘致を進めるようになるが、昭和4(1929)年の世界恐慌以降はその傾向がさらに強まる。青森県でも、失業救済のための公共事業として、昭和6(1931)年、青森市と十和田湖を八甲田越えて結ぶ道の整備が始まった。この道には昭和9(1934)年に鉄道省営自動車初の観光路線として十和田線が開業した。これは後に国鉄バス十和田北線となり、十和田湖への代表的な交通機関として人気を集めた。



『青森県下鉄道沿線風土記』

青森県内の鉄道沿線の様子を紹介している。昭和4(1929)年発行。著者は佐藤嘉衛。



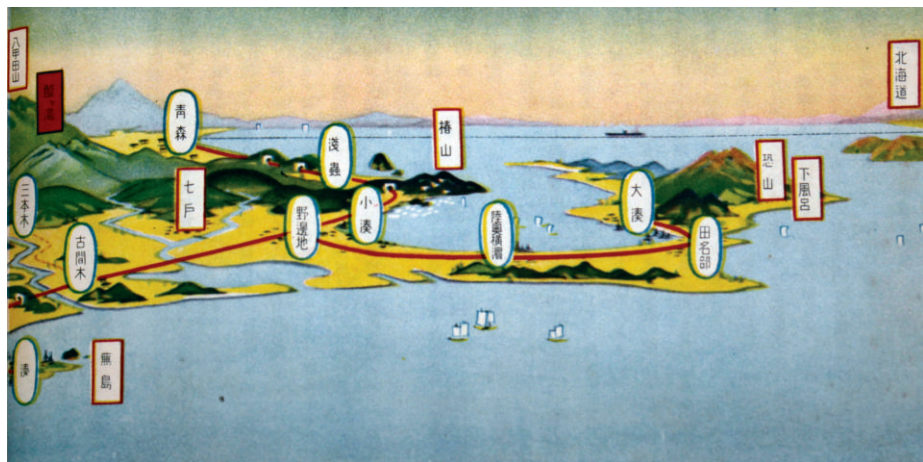
『鉄道旅行案内』(表紙)

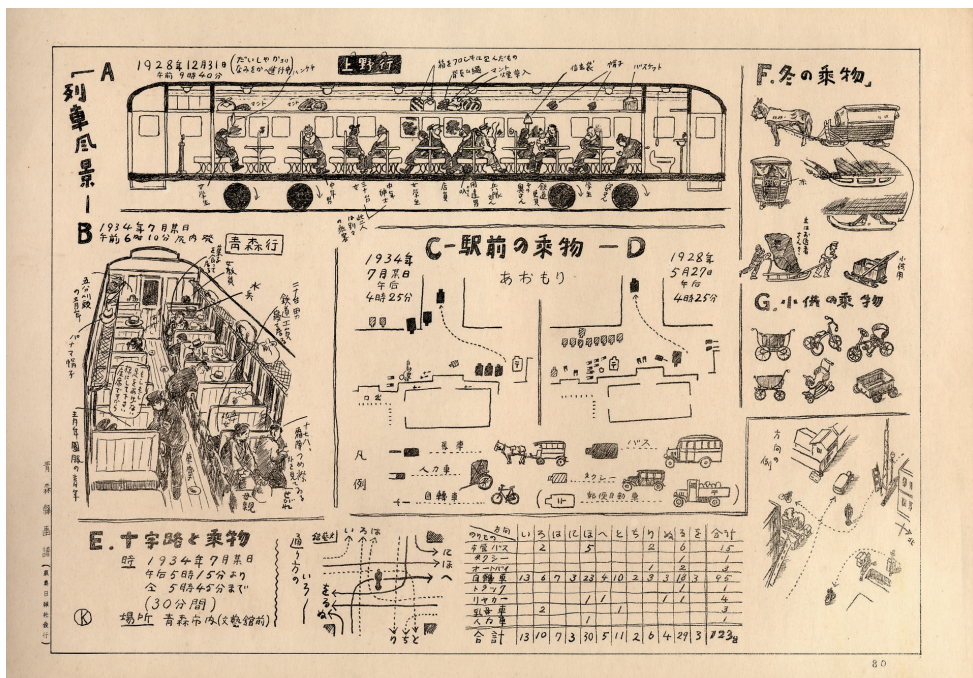
大正15(1926)年発行。当時の鳥瞰図の代表的画家吉田初三郎の挿絵がある。非常に好評で、何度も版を重ねた。



『最新鉄道図』

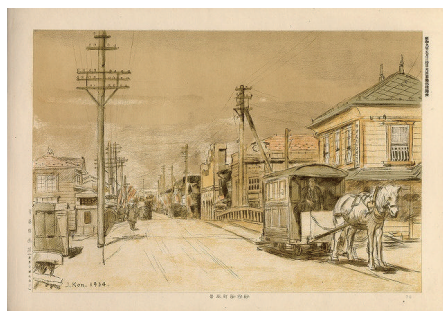
昭和4(1929)年発行の全国鉄道地図。





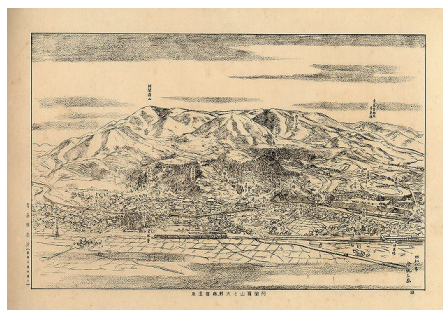
『青森県画譜』 今純三画・昭和8・9(1933・34)年

- 1 風俗図 乗物いろいろ (第10集)
- 2 田名部町風景 (第9集) 現在のむつ市中心部
- 3 阿闍羅山と大鰐、蔵館温泉 (第3集)



青森駅汽車汽船発着時刻表

昭和4(1929)年のもの。長靴の広告と一体化している。



Ⅱ 旅と観光

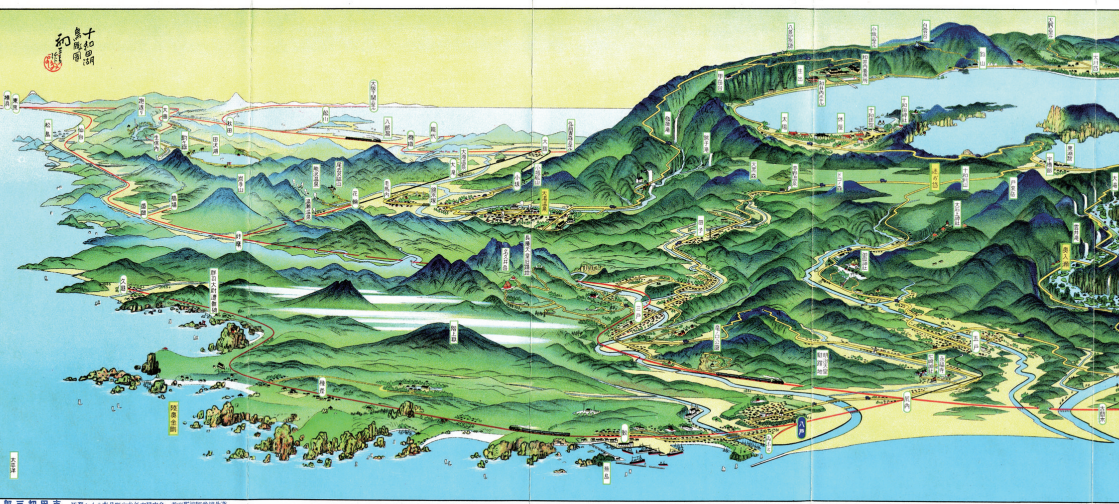


交通機関の発達による移動時間の短縮と移動範囲の拡大は、人々の旅をより一層充実させ、大正末期から昭和初期にかけて、空前の旅行・観光ブームが巻き起こった。

全国各地で観光名所の開発・宣伝が盛んになり、旅行案内や観光地の絵はがきが発行され、人々を旅へと誘った。一方で、絵はがきはカメラが普及する以前の代表的な土産物の一つでもあった。

旅は、駅弁や土地の名物を味わい、名所をめぐり、お土産を買うといった楽しみを目的とする「旅行」へと変わっていった。

1 風景と観光名所



(1) 鳥瞰図

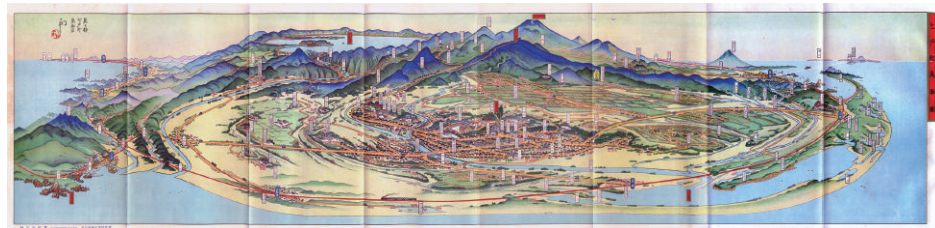
鳥が上空から地上を斜めに見下ろしたような視点で描かれた鳥瞰図。有名な寺社・景勝地・観光名所などの案内地図を兼ね、人々をおおいに魅了した。

吉田初三郎(1884-1955)は鳥瞰図の代表的画家で、大胆なデフォルメの構図が好評を博し、鉄道沿線や都市の観光名所を描いた作品を数多く制作した。

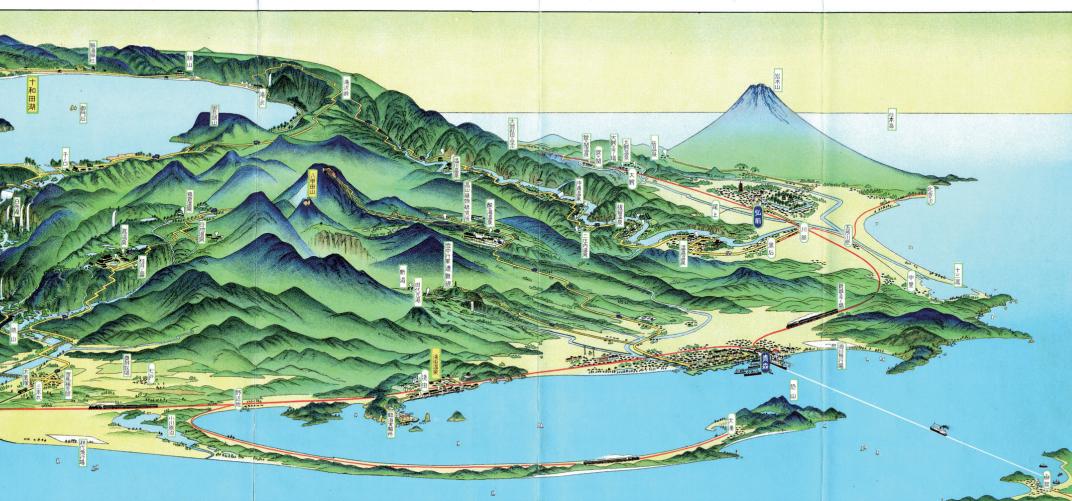
金子常光(生没年不詳)は初三郎のかつての弟子で、初三郎の元を離れたあととは最大のライバルとなった。



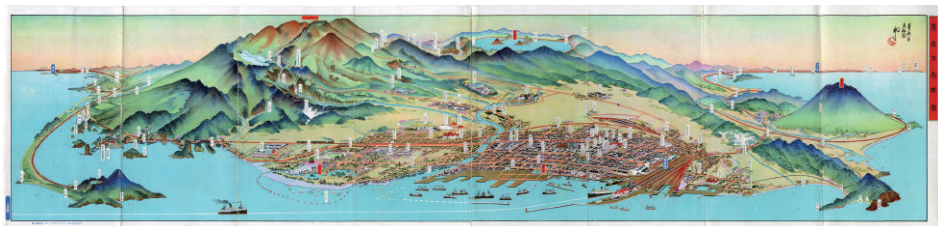
浅虫温泉名所図絵 大正15(1926)年。金子常光作。名畑商店発行。



七戸町鳥瞰図 昭和9(1934)年。吉田初三郎作。七戸町役場発行。



十和田湖鳥瞰圖 昭和8(1933)年。吉田初三郎作。五戸町十和田観光会発行。



青森市鳥瞰圖 昭和7(1932)年。吉田初三郎作。青森市役所発行。



弘前市鳥瞰圖 昭和10(1935)年。吉田初三郎作。弘前市役所発行。



八戸市鳥瞰圖 昭和8(1933)年。吉田初三郎作。八戸市役所発行。

(2) 戦前の絵はがき

明治 33 (1900) 年に私製はがきの発行が認可されたことを契機に、明治末期からさまざまな絵はがきが大量に発行されるようになった。

大正期には京都・東京などの版元だけではなく、地方の絵はがき小売店が独自に印刷機をもち、地域の風物・風景、名所を題材にした写真入りの絵はがきを発行するようになる。

その後も、昭和 10 年代初期ころまで絵はがきブームが続き、各地の代表的風物や豊かな自然景観が四季の移ろいとともに収められ、観光客のお土産にもなった。

当時の絵はがきの風景は、今も人々の心を魅了する風物・観光名所である。

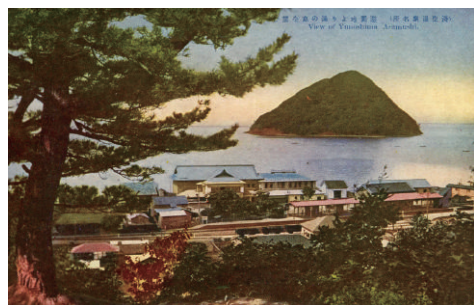
* 今回の展示では、戦前の絵はがきを展示した。



〔黒石名所〕中野山紅葉 (其四)



〔南部恐山名勝〕三途川並太鼓橋



〔浅虫温泉名所〕遊園地より湯の島を望む



〔鉄道院〕青函連絡船 比羅夫丸

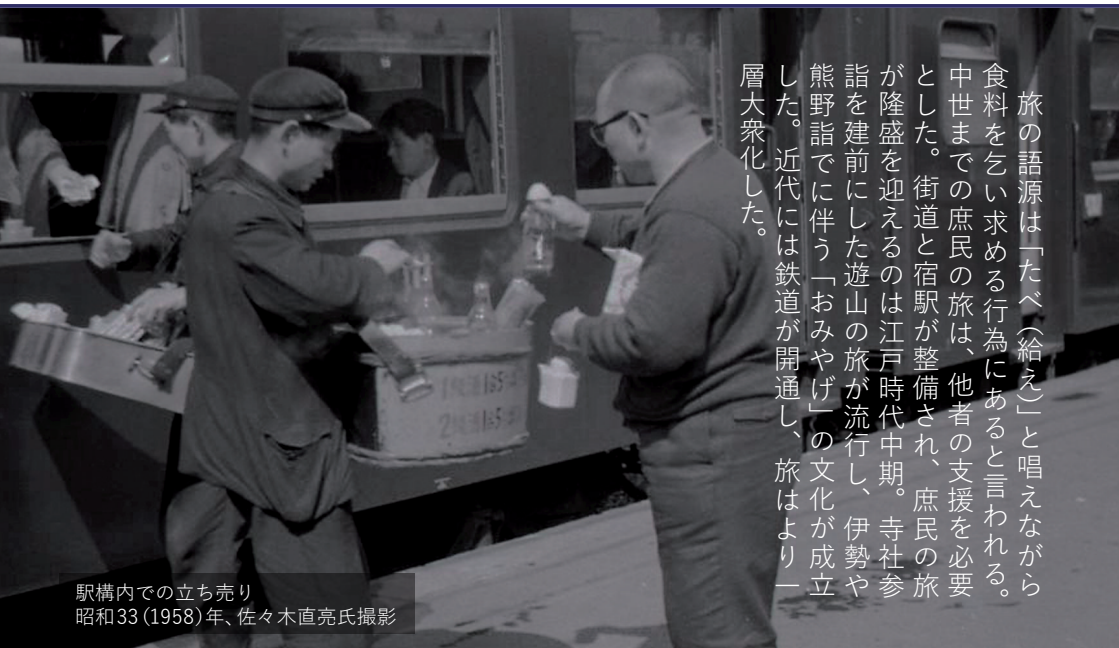


〔弘前名所〕鷹揚園の桜花 (其一)



十和田湖 子之口の瀧

2 旅のおとも・旅のみやげ



旅の語源は「たべ（給え）」と唱えながら、食料を乞い求める行為にあると言われる。中世までの庶民の旅は、他者の支援を必要とした。街道と宿駅が整備され、庶民の旅が隆盛を迎えるのは江戸時代中期。寺社参詣を建前にした遊山の旅が流行し、伊勢や熊野詣に伴う「おみやげ」の文化が成立した。近代には鉄道が開通し、旅はより一層大衆化した。

駅構内での立ち売り
昭和33（1958）年、佐々木直亮氏撮影

（1）旅のおとも — 戦前の駅弁・戦後の駅弁



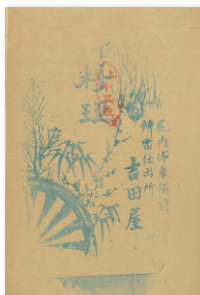
1



2



3



4

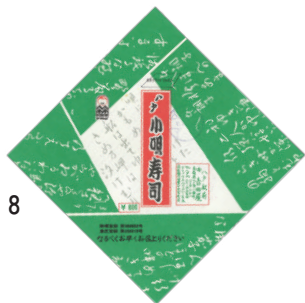
「名所」を描く戦前の駅弁

- 1 弘前駅（原子喜太郎）
絵柄は岩木山、弘前城、最勝院五重塔。明治44年
- 2 青森駅（海陸連絡待合所）
岩木山と海。同43年
- 3 野辺地駅（野坂屋）同44年
- 4 尻内駅（吉田屋）同30年頃

※1-4東京大学総合図書館蔵
（部分切り抜き）



7



8

「土地の名物」と結びつく戦後の駅弁

5 御弁当（野辺地駅）

6 汽車土瓶

7 帆立釜めし（青森駅）

8 八戸小唄寿司（八戸駅）

(2) 旅のみやげ — 他人へのみやげ

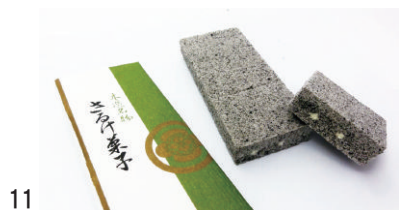
庶民の旅の原型の一つが「お伊勢詣り」を始めとする近世の寺社参詣である。「みやげ」は神様の「おかげ」を頂いて持ち帰り、故郷で分配することに本来の意味があった。土地の名産が織り込まれた菓子は、「旅のしるしのお裾分け」に適していた。



9



10



11



12



13

地域の名産にまつわる菓子

9 りんご羊羹（弘前市） 10 昆布羊羹（青森市）

11 さるけ（泥炭）菓子（つがる市）

12 菊羊羹（八戸市）

13 マルメロ羊羹（八戸市）

※9のみ 東京大学総合図書館蔵（部分切り抜き）



14



15



16

(3) 旅のみやげ — 自分へのみやげ

他人への分配を念頭に置く日本的な土産物に対し、海外で土産（スーベニア）といえば旅の記念品。戦後は日本でもスーベニアが流行した。ペナントや提灯、土産こけしや小鳥の置物などは、その土地で作られたものではないが、記念（メモリアル）として飾って楽しむ土産である。



17



18



19



20



21

昭和30～40年代に流行した土産置物

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| 14 浅虫 (スピッツ) | 15 深浦 (パンビと入江) | 16 夏泊大島 (小鳥と草花) |
| 17 十和田湖 (きのこ) | 18 野辺地 (りんご) | 19 大鰐 (りんご) |
| 20 八戸 (夫婦かっぱ) | 21 浅虫 (貝細工) | |



正誤表

表紙裏〈会場および会期〉

3 青森会場

青森県立美術館

（誤）令和4年12月23日（水）～令和5年1月29日（日）

（正）令和4年11月23日（水）～令和5年1月29日（日）